

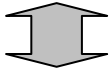
Table with columns: 評価施策名, 施策CD, 施策主管課, 課長名, 政策名, 施策関係課

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

○歴史文化遺産を市民共通の財産として保存、継承する。

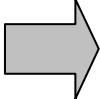
Table with columns: 目標項目(成果), 単位, H20 目標値, H20 実績値, H21 目標値, H24 目標値



1 南丹市の現状(課題)

○歴史文化遺産を、さまざまな調査を経て文化財として指定するなどの措置を講じている。
○文化財については、保存と活用を併せて進める視点も、歴史文化の周知や観光振興の上で大切であり、次の世代に保存、継承しなければならない。
○近年、国は登録文化財制度を進めており、南丹市でもこの制度を活用した取り組みを進めている。
○文化博物館、郷土資料館などで文化財関係資料の展示・公開を行うとともに、児童生徒、市民や来訪者へ歴史文化を学ぶ機会を提供している。

(現状)
・文化博物館・郷土資料館の年間入場者数 7,763人(平成20年)



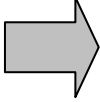
2 対策をしなければどうなるのか

○長い歴史の中で培われてきた文化の継承ができない。



3 それがおきたのか

○南丹市には、長い歴史の中で培われてきた多様な文化があり、次代に引き継がなければならない。
○市域には多くの指定文化財があり、それらの保護に必要な支援を行ってきた。中でも美山地域の伝統的建造物群保存地区のかやぶき民家群は、多くの観光客が訪れている。



4 それらを解決するために何をやるのか

- ①歴史文化遺産を保存する。
・地域の歴史文化資料、伝統行事などの調査、収集
・国登録文化財制度の積極的な活用
・文化財の保護の推進
・歴史文化遺産の保存等の推進と支援の実施
②財産を愛護し、次代へ引き継げるよう意識の向上を図る。
・遺産に対する市民の理解の向上
・教育に関する啓発の推進
・歴史文化に詳しい市民の協力
・民俗文化継承に関する支援
・遺産の観光活用
・遺産周辺の環境整備及び案内機能の強化

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

Table with columns: 決算額(計画額), 職員給与費、共済費等, 財源(使用料・手数料, 国・府支出金, 地方債, 一般財源), 職員従事人数, 人件費, 事業費総額

【構成する事業】

Table with columns: 会計CD, 事業CD, 事業名(細事業名), 担当課, 決算額(千円)

【総合評価】

①目標の達成状況
伝統文化を継承するためには文化財の保存とその継承、さらに活用も必要で、目標数値は定めにくい。
②目標値や施策の考え方を見直し
歴史資料の損壊・消滅の恐れに対しては早急な対応が急がれる。

【改善の方向性】

①今後の方向性
限られた期間や予算の中でより効率的な対応と文化財保護にかかる住民の理解と協力を深める。
②各事業の対応
過疎地域などでは祭礼などが後継者不足から消滅の危機に陥っている現状もあり、早急な調査も必要。

※評価の結果と経過